

2022年度

【一般選抜前期 B 日程 / 共通テストプラス方式（2 日目）】

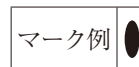
2 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は 1 部、解答用紙は 1 枚です。
3. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 7	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
化学基礎・化学	9 ～ 16	
生物基礎・生物	17 ～ 26	
日本史 B	27 ～ 35	
国 語	国語 1 ～ 国語 20（うしろから始まります）	

4. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆（シャープペンシル可）で右の例のように正しくマークしてください。



5. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。なお、受験番号欄には、一般選抜前期 B 日程の受験番号を記入してください（一般選抜前期（共通テストプラス方式）の受験番号は記入しないこと）。

(2) 解答科目選択欄

解答する科目を 1 つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

6. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください（消しくずを残さないこと）。
7. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
8. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
9. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号

(1)

)

(61)

)

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

トーマス・モアの「ユートピア」は一五一六年、最初にヨーロッパ大陸でラテン語で発表され、評判になりました。イギリス人が英語で読んだのは、ずっと後のことです。モアは一四七八年にロンドンに生まれて一五三五年に死刑になっています。おじいさんの代からの法律家で、トーマス・モアもヘンリー八世の治下、大法官にまで出世しています。

A

、カソリック教徒としてヘンリー八世の離婚に反対したことから、大逆罪でギロチンにかけられたのです。

一五、六世紀のヨーロッパというのは、どのような時代かというと、一四世紀にカンソウ^Aウ期の影響と思われるネズミの大発生によってペストが流行し人口は急減、ノーマンズランドがあちこちにでき、さらに飢饉^{ききん}が追い打ちをかけるという状況でした。一方、グーテンベルクの印刷機の発明によって聖書が印刷され、雪に閉ざされた地域には、教会による祝福なしでも、聖書を読んでいれば救われる、というルター派が台頭してきます。また、人間性の回復を唱えるルネッサンスの動きも

I

してきて、カソリック教会の財政的問題を宗教的正当性によって隠蔽する免罪符発行に反対する動きもさま

ざまにできて、「宗教革命」の風が吹き荒れていました。さらに、大航海による新大陸の発見によって、教会の「配下」というよりも新しい世界との貿易によって力を付けてきた商人を抱き込んだ領主、国王をパトロンのする「市場経済」社会も形成されつつありました。モアはカソリック教徒として教皇に仕える身でありながら、『愚神礼賛』をかいて教会批判をするヒューマニスト、エラスムスとも意

あ

投合してしまう。しかし、自分の不

倫を正当化するためにローマ教会とそでを分かち、イギリス国教会を^Bジュリツしてしまうヘンリー八世の離婚だけは認めず、結局死刑になってしまうのです。ヘンリー八世はシェークスピアの芝居にもなっているように、大変な暴君です。当時のギロチンというのは、一種の見せ物で、処刑されるものも、観客を喜ばせるような「一言」をいわなければいけない。日本にも、「引かれ者の小唄」というのがありますが、同じですね。ですから、ギロチン台の見える広場に面した部屋の方が部屋代が高かったといわれていますが、それはまた別の話です。

『ユートピア』は二巻からなっていて、第一巻は「国家の最善の状態についてのラファエル・ヒスロデイの物語」となっていて、ポルトガル出身のヒス

ロデイ（おしゃべりやという意味だそうです）がアメリゴ・ヴェスプッチの航海に同行して見聞した東方や南方の珍しい国とヨーロッパ、イギリスを比較して批判をしたり長広舌をぶっています。第二巻が、そのヒスロデイが訪れた架空の島、「ユートピア」の叙述になっています。ユートピアというのは、ギリシャ語のオイトポス、つまり not place、「どこにもない」という意味ですね。

モアが描く「ユートピア」というのは、面積はイングランドと同じで、人口も同じ。彼らは原住民を征服して奴隷にしている。もちろん死刑もある。彼らは高尚な話をして、宗教心があつい。農業中心で、当時盛んに行われていた「囲い込み」に対してはヒスロデイの口を借りて、きびしく批判している。レイサイ農民を追放するものだ、というわけです。しかし、のちの評価では「囲い込み」によって、農業の近代的利用を促進した功績の方が大きいとされてきます。非生産的な不在地主と堕した旧領主の「中世的な土地利用」は、新興市民階級の「合理的再編成」にうち破られて、その後イギリスの国力を充実させていきます。貿易もかなりさかんにやっていますが、その利益は、戦争に使われます。戦争は傭兵によって行われるので、傭兵に支払う報酬として使うわけですが、「その大部分が生還しないので、結局その報酬もそれだけ」と、何ともひどい話です。国民皆農で、国内通貨はなく、生産物は共通の倉庫に収められ、欲しいものは無償で自由にとることができるといふように持ち上げられるところかもしれません。しかし、モアの場合には、あくまでも中世的な社会を前提にしていたことを、忘れてはいけません。B、農業重視の平等社会というのは、修道院中心の理想社会に他なりません。狭いながらも、そこには神にまもられた平穏と歓びがあるというわけです。

モア以前にも「理想国家」を描いたものはいくつかありました。モアも傾いて描いた『神の国』（四一三―四二六）では、地中海世界におけるローマ的秩序の崩壊期に「カルタゴの情熱、ギリシャの知性、ローマの意志」を帯び、「あらゆるものを疑い訝るとも、その疑い訝りつつある（我）は確実に実在する」と考える精神の巨人、アウグスティヌスが、「地上」は悪魔の手に落ちようとも、ローマ・カソリックの信仰者は「神の国」を求めて強く生きなければならないことを説いています。

もう一人、モアが大きな影響を受けたとされるプラトンの『国家』。ラテン語ではレスプブリカ、「公共のもの」という意味ですが、そこでプラトンは、哲学者が統治者になるか、統治者は哲学者でなければならない、と述べています。しかし、実際には、プラトンの理想国家は時の指導者に受け入れられず、挫折してしまいます。

こういった古典的ユートピアのイメージは、いずれも「時代の転換期に当たって理想の実現を求めて、政治的実務の情熱を燃やしながら、挫折した詩的思想家たち」によって描かれたものであり、それ故に、現実に対する鋭いフウシと感動を与え、おもしろがられたのではないのでしょうか。

モアから約二百年後、一七二六年に発行されたスウィフトの『ガリバー旅行記』に描かれている、ガリバーが航海しながらであった社会は、それぞれ完

結した社会ですが、視点を変えるとグロテスクで滑稽なくつものユートピアに見えます。それは一五世紀の大航海期を過ぎて「見知らぬ国」との交流がすすみ、相手の国の生活が少しずつわかってきた時期であり、近代社会人類学の認識手法がそろそろできてきて反映していると思います。いわば「ユートピアの相対化」が行われているといえるでしょう。大英帝国の探検と植民の伝統と気質の現れでしょうか、航海した先にたどり着いた島に「何かいいことありそうな」話というのは、その後スチーブンソンの「宝島」にも受け継がれますが、これはユートピアとは関係ありません。

古典的ユートピア像が挫折からうまれたものとする⁵と、「理想国家」を現実のものにしようとする動きが一九世紀におこります。ロバート・オーウェンのような社会改良家は、当時ヒヤク的に進んだ技術と「理性の学」である科学と、それを実現する経済の力によって「理想都市」の技術的プランを提案します。ハワードの「田園都市」構想は日本にも影響を及ぼしました。ル・コルビジェの「プラン・ヴォアザン」「輝ける都市」「緑の都市」、ルシオ・コスタとニーマイヤーの「ブラジリア計画」など、二〇世紀の大きな「都市計画」構想は、「理想都市」をめざした、「ユートピアの実現化」と考えられなくもありません。

C、一九世紀、産業革命のイギリスでは、「石炭が人を食う」といわれるほど労働環境がひどかった。『家なき子』という話がありますね。彼はロウティーンの時、炭鉱で働いていました。当時ようやく児童を重労働につかっではいけない、という考えが出てきて法律もできますが、それまでの児童はひどい扱いをうけていた。ヨーロッパの労働条件・生産状況が非常に悪かったものですから、これではいけないと社会福祉法や工場法、労働組合などもできてくる。どうやって富を平等に配分するかという事で、アダム・スミスの「国富論」などがでてくるわけですが、それでは労働者の搾取はなくならない、という事で、マルクスが革命による国家体制の変革、つまり共産主義を「現実」のものとすることを提唱します。ですから、帝政ロシアが一九一七年にレーニンの革命でソビエト連邦になったときには、あれこそ人類のユートピアだといわれたわけです。それからナチの帝国もそういわれ、人民中国もそうでした。搾取がない、ということがユートピアだというわけです。

D、ユートピアが「実現」してしまったとき、ユートピア体制は反ユートピアを生み出します。

オルダス・ハックスリーの『すばらしき新世界』（一九三二）は、「キリスト紀元」ではなくアメリカの自動車王ヘンリー・フォードに因^{ちな}だ「フォード紀元」が採用されている、「〈共有・均等・安定〉のために完全に科学的に管理されている世界」です。しかしその扉に引用されているロシアの実存主義的宗教哲学者、ベルジャエフ（一八七四―一九四八）の言葉は、ヨーロッパ近世が追究してきたユートピアがじつはおそるべきディストピア（非ユートピア）に他ならないことをIV しています。すなわち、「ユートピアは実現可能である。生活はユートピアへ向かって進んでいる。そしておそらく、知識人や教養ある階級がユートピアを避け、より完全ではないがより自由な、非ユートピア的社会へ還^{かえ}るためのさまざまな手段を夢想する、そういう新しい世紀が始まるのであろう。」（松村達雄訳、講談社版）とベルジャエフはいつていますが、完全に統制され精神的にもストレスのない「すばらし

き新世界」にも、「不幸になる権利を求める」野蛮人が登場します。

人口配分も最適になるよう完全に人工授精によってコントロールされ、ストレスは「ソーマ」という薬で解消される。文明には崇高も悲壮も必要ない。

「……そういうものは政治の貧困の兆候なんだ。(中略) 戦争があつたり、どちらに忠誠をささげるべきか分からなかったり、抵抗すべき誘惑があつたり、戦つたり守つたりせねばならぬ愛の対象があつたりする場合——そういうところでは、たしかに崇高や悲壮も何らかの意味があるだろう。しかしいまでは戦争などというものはない。人が誰かをあまり愛しすぎないように最大の注意が払われている。」(松村達雄訳、講談社版)と賢明な統治者のひとりがいます。

E、自然と向かい合いその中で生きる苦しみや*パセティックなものを引き⁶うけながら生きてきた「自然人」の野蛮人には、そのような国は「愚者の楽園」と映ります。

文明の進歩に伴う V として「浅薄で平民的で陽気で騒々しい」(アメリカのような)大衆の国になるか、または進歩を拒否して「原始社会の悲惨、野蛮、愚劣」を選ぶか、どちらかを選ばなければならないといつていたハックスリイは、第二次大戦後、原爆戦争によって完全に野蛮と迷妄の支配する世界になってしまったデイストピア——『猿と本質』(一九四九)を描きます。そこで描かれた社会は野蛮人よりもさらに低劣な「猿」によって支配管理された全体主義社会へと後退しています。

ユートピアがすでに実現可能であり、ある意味では一部の世界で実現してしまっていること、そしてそれが人間にとっては恐ろしい「デイストピア」であるというベルジャーエフの鋭い指摘は、第二次世界大戦前には、まだヨーロッパの人々にシリ阿斯には受け止められていませんでした。しかし、ナチズムの台頭からスターリニズムの強大化でおわつた第二次世界大戦は、ヨーロッパの十九世紀までの幻想をすべてうち砕いてしまいました。『猿と本質』と同じ年に発行されたジョージ・オーウェルの小説『一九八四年』は、⁷「完璧に仕上げられた」ユートピアの「悪夢」を、精緻に描ききっています。

党の最高指導者たる「偉大なる兄弟」の顔と「ビッグブラザー・イズ・ウォッチイング・ユー」という広告がいたるところに張り巡らされている街。政府の機構は、報道、娯楽、教育、美術を司る真理省、戦争を⁸ VI 平和省、経済問題を担当する豊富省、法と法律を司る愛情省の四つからなります。各個の部屋にあるテレスクリーンは、政府からの宣伝と「嚇々たる戦果」をながすと同時に、「思想警察」の監視装置としても使われています。

物資は配給で「豊富省」は、チョコレート⁹の配給を突然「週二〇グラムに増やした」と発表するが、それは先週の三〇グラムを二〇グラムに減らしたことをそう言っているにすぎません。子供は「スパイ団」に所属し、親の寝言も密告する。党の VII は「戦争は平和である」「自由は屈従である」「無知は力である」というむちゃくちゃなものです。

このような状況の下で、主人公の男ウィンストンはある日突然テレスクリーンに隠れて日記を付けはじめます。日記というのはある意味で

VIII

レベルでの「真の歴史」を記録することです。彼は毎日真理省「創作局」で、過去の新聞や公式記録で都合の悪くなったものを「リファイル」する仕事をしていました。以前英雄として賞賛されていた人も、突然「偉大なる兄弟」によって肅清されると、その人は「非実在」としてあらゆる記録から抹消されるのです。ウィンストンの行為は、そのような中でやさやかな抵抗だったのかもしれませんが。しかし、だんだん日記に書く内容が過激にエスカレートしてきます。そしてついに反体制組織と接触するまでにいたって捕まるのですが、それがすべて最初から「罠」だったことがわかる。

「愛情省」での「思想改造」の過程は、「精神のサデイズム」をこれまでになく精緻に描写しています。「精神の明晰性」を保ったまま、その「自由意志」を何度も執拗に踏み碎かれていくのです。「二足す二は五」であり、空の星はすぐ近くに燃えるランプであり、地球の歴史は人間の出現とともに始まったものである。――「IX」すら党が作ることができるのです。

「……君は人間性というようなものがあって、それがわれわれのやり方に反発し、われわれに反逆するだろうと思っている。（中略）しかしわれわれは人間性まで創造しているのだよ。人間というものはどうにでもなるものさ。（中略）人間性即ち党だ。」

「……われわれは消極的な服従にも、どんな至高の屈従にも満足を感じない。君が結局はわれわれに屈服するとき、君の自由意志に基づいたものでなくちゃならない。」

（新庄哲夫訳、早川書房版）

まるで最近のオウム真理教のマインドコントロールを見るようで、この小説を読んでも、決してマインドコントロールされることはなかっただろうと思いますけれども、けっきょくウィンストンは完璧に「仕上げ」られるわけです。そして、心から「偉大な兄弟を愛している」というようになるわけです。私たちはそこに、おぞましい「反ユートピア」が、改造された人間にとっては再び「ユートピア」になるといって、恐ろしい変貌を目撃することになるのです。のちにソルジェニーツインのシベリア流刑から解放されてからのレポートによって、『一九八四年』の世界が実際に存在していたということを知って愕然とするわけですが、現実には、少なくともソルジェニーツインはウィンストンのように「仕上げ」られずに生き延びていたことが、多少といえるでしょうか。しかし、いずれにしても、この『一九八四年』が「ユートピア文学の終焉」といえるでしょう。もはや「完璧に仕上げられた」ユートピアは人間にとって地獄に他ならない、ということをも、多くの知性は知ってしまったのです。

（小松左京「ユートピア3000」より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

注 パセティックな…悲壮な。

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① ソウギョウは易く、守成は難し

(1)

D ① イッシ乱れぬ演技

(4)

② 責任がソウケンにかかる

② 玄関でメイシを出す

③ ショウソウ感をつのらせる

③ あれこれとセンシバンコウする

④ オリンピックのソウコウ会

④ シシのしびれを伴う病氣

⑤ 作家のソウコウが見つかる

⑤ シハツ電車に乗り遅れた

B ① キネンジュを植える

(2)

E ① 舞台でハヤクをもらえた

(5)

② メールをジュシンする

② 法律上のセイヤクがある

③ 大願ジョウジュ

③ 粗筋をイヤクして伝える

④ ジュヨウと供給

④ ヤッコウ成分を取り出す

⑤ キジュのお祝いをする

⑤ スパイがアンヤクする

C ① コウゲンレイシヨク

(3)

② ギレイ的な挨拶

③ 応援団のゲキレイを受ける

④ レイラクの一途をたどる

⑤ レイスイ機の調子が悪い

問二 空欄 A に入るのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A ① というのも

② このため

③ まして

④ しかし

⑤ もちろん

空欄 B ① とりわけ

② このうち

③ つまり

④ 他方

⑤ ともあれ

空欄 C ① 一方

② だから

③ あるいは

④ また

⑤ 加えて

空欄 D ① けれども

② 確かに

③ おまけに

④ でないと

⑤ このように

空欄 E ① なかんずく

② それに対して

③ したがって

④ たとえば

⑤ その上

(10)

(9)

(8)

(7)

(6)

問三

空欄

I

、

X

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 I

① 浸透

② 埋没

③ 縮小

④ 変質

⑤ 腐敗

空欄 II

① 事足りる

② 生じる

③ 浮く

④ 不足する

⑤ 増える

空欄 III

① 原始的

② 閉鎖的

③ 近代的

④ 打算的

⑤ 進歩的

空欄 IV

① 発明

② 摘発

③ 誘発

④ 反発

⑤ 告発

空欄 V

① 代償

② 配当

③ 準備

④ 衝撃

⑤ 処分

空欄 VI

① 審理する

② 所管する

③ 報道する

④ 調停する

⑤ 一瞥する

空欄 VII

① バイブル

② アンソロジー

③ スローガン

④ レトリック

⑤ プロローグ

空欄 VIII

① インテリ

② 同人

③ 住民

④ 個人

⑤ 異分子

空欄 IX

① 魅力的提案

② 科学的真理

③ 弾力的運用

④ 初歩的誤謬

⑤ 合理的解釈

空欄 X

① 腹いせ

② 戒め

③ 気掛かり

④ 救い

⑤ 驚き

(20) (19) (18) (17) (16) (15) (14) (13) (12) (11)

問四

空欄

あ

い

に入る漢字と同じ漢字が に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

空欄 あ

① 色満面

② 平 の平左

③ 先を制する

(21)

(22)

(23)

空欄 い

④ 観天望

⑤ 人情の 微に通じる

⑥ 随 の涙を流す

(21)

(22)

(23)

空欄

⑦ 怪 炎をあげる

⑧ 悲 こもこもに至る

⑨ 臨 応変

(24)

(25)

(26)

空欄

① 抱腹絶

② 用意周

③ 羊 狗肉

(24)

(25)

(26)

空欄

④ 達度評価

⑤ 見かけ し

⑥ 京の着 れ

(24)

(25)

(26)

空欄

⑦ 精神一 何事か成らざらん

⑧ 路 に迷う

⑨ 怒り心 に発する

(24)

(25)

(26)

問五 傍線部1「長広舌をぶっています」、傍線部2「持ち上げられる」、傍線部3「帯し」、傍線部6「引きつけ」、傍線部8「嚇々たる」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1 ① 滔々^{とうとう}としやべっています ② ネチネチとしやべっています ③ ハキハキとしやべっています

④ 鬱々^{ふさふさ}としやべっています ⑤ 途切れ勝ちにしゃべっています

傍線部2 ① かねてから望まれる ② なぜか警戒される ③ 必要以上にほめられる

④ 心の中で頼りにされる ⑤ 教え込まれる

傍線部3 ① 人に授け ② 自ら操り ③ 明確に定め ④ 人に勧め ⑤ 身につけ

傍線部6 ① 跳ね返し ② しつかり制御し ③ ごまかし ④ あえて受け入れ ⑤ 勢いよく破り

傍線部8 ① 危うい ② 著しい ③ 不変の ④ 都合のよい ⑤ 偽りのない

問六 傍線部4「いわば『ユートピアの相対化』が行われているといえるでしょう」とあるが、筆者はその背景をどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

① 大航海時代をすぎて「見知らぬ国」との交流がすすんで相手の国の生活が少しずつわかりはじめる一方、近代社会人類学の認識手法がそろそろ確立し始めた時期であった。

② 「時代の転換期に当たって理想の実現を求めて、政治的実務の情熱を燃やしながら、挫折した詩的思想家たち」によって描かれた古典的ユートピアが、現実とはかけ離れている点が大きな問題になっていた。

③ スウィフトは、ガリバーが航海しながらであった社会の、グロテスクで滑稽な点を強調することで、それが目指すべき「ユートピア」ではないということを示唆しようと目論^{もくろ}んでいた。

④ 近代社会人類学の認識手法が反映され、大英帝国の探検と植民の伝統と気質の現れとして、航海した先にたどりついた国に対する「ユートピア」性が色濃く描かれるようになった。

⑤ 航海した先にたどり着いた島に「何かいいことありそうな」というスウィフトの『ガリバー旅行記』の話の筋立てが、「ユートピア」という概念そのものに根本的な変化をもたらしていた。

(32)

(27)

(28)

(29)

(30)

(31)

問七 傍線部5「『理想国家』を現実のものにしようとする動きが一九世紀におこります」とあるが、筆者はその「動き」によって生じた事態について、

どのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(33)

① 労働条件・生産状況が非常に悪かったヨーロッパの中でも、とりわけ、労働環境のひどかった産業革命期のイギリスで、社会福祉法や工場法、労働組合などができ、状況の改善がはかれるようになったこと。

② 帝政ロシアが一九一七年にレーニンの革命でソビエト連邦になったときに、マルクスが提唱した、革命による国家体制の変革が、人類のユートピアを作る上では欠かせないものと言われるようになったこと。

③ 労働者の搾取をなくすために、富を平等に配分することを目指して提唱された、アダム・スミスの「国富論」が、共産主義を「現実」のものとするマルクスの考えに駆逐されてしまったこと。

④ 二〇世紀になって、ル・コルビジェ、ルシオ・コスタ、ニーマイヤーらによって、大規模な「都市計画」が構想され、「理想都市」をめざした、「ユートピアの実現化」がいくつも試みられるようになったこと。

⑤ 労働者の搾取が問題になっているときに、搾取がないということをユートピアと考えると、新たな政治体制が作られたが、実はそのユートピアを**ひょうぼう**する体制が反ユートピア的なものを作り出してしまうこと。

問八 傍線部7「『完璧に仕上げられた』ユートピアの『悪夢』」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

中から一つ選びなさい。

(34)

① 以前英雄として賞賛されていた人も、突然「偉大なる兄弟」によって肅清されると、その人は「非実在」として、真理省「創作局」によって過去の新聞や公式記録などあらゆる記録から抹消されて、はじめから存在しなかったことになってしまうこと。

② ハックスリイが『猿と本質』で描いた、第二次大戦後、原爆戦争によって完全に野蠻と迷妄の支配する世界になってしまったデイストピアのよ
うに、社会が、「野蠻人」よりもさらに低劣な「猿」によって支配管理された全体主義社会へと後退していること。

③ 党と政府によって完全に統制・管理された「ユートピア」が、実はおぞましい「デイストピア」であることに気づいても、「思想改造」によっ
て、その「デイストピア」を自らの自由意志で「ユートピア」だと考えるようになってしまうこと。

④ 各個の部屋に設置されたテレスクリーンが「思想警察」の監視装置として使われ、「豊富省」による物資配給が欺瞞ぎまんに満ちたものになり、子ど
もが「スパイ団」に所属し、親の寝言も密告するなど、政府による締め付けが厳しく行われていること。

⑤ ナチズムの台頭からスターリニズムの強大化でおわった第二次世界大戦によって、ヨーロッパの十九世紀までのユートピア幻想がすべてうち砕
かれたのにも関わらず、ユートピアに関するベルジャーエフの鋭い指摘がシリアスには受け止められなかったこと。

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

勝と朝子には三人の子供がいる。勝は、妹の安枝を、三人の子守として引き取っていた。

ある夏、朝子、安枝、子供たちが、伊豆半島南端のA海岸へ海水浴に出かけたときに、安枝が心臓発作を起こして亡くなり、彼女に伴われていた二人の子も海で溺れ死んでしまった。

この事件はたしかに因襲を超越していたが、そういう時ほど人が因襲に従って行動する必要がある時はないのである。夫婦はまことにやさしくいたり合い、多額の心附や挨拶廻りを忘れなかった。

どんな死でもあれ、死は一種の I な手続である。かれらは多忙だった。わけでも勝は一家の主人としての責任から、殆んど悲しんでいる暇を持たなかったと云ってもカゴンではない。*1 克雄にとつては、という、そのふしぎなお祭の毎日に、大人たちが芝居をやっているように彼には見え

えた。ともかく一家は、何とかこの煩雑な事務をやつてのけた。香奠も大そう多かった。生活力のある家長が生き残っている場合のほうが、家長の死んだ場合より香奠は多いものである。

勝も朝子も、たしかに自分たちは「気が張っている」と思っていた。朝子はこの狂わんばかりの悲しみと、この気持の張りとは、どうして II するのかわからなかった。味もわからぬままに陰気な顔をして摂る食事もよく進んだ。

朝子が苦にしていたのは、金沢からの勝の父母の上京であったが、かれらの上京はやつと葬式に間に合った。朝子はいやな思いをして、「申し訳ございません」をくりかえし、その反動で里の両親には、ひどい態度で喰つてかかった。

「誰がいちばん可哀想だと思うの。子供を二人亡くしたあたくしじゃないの。それなのに皆があたくしのことを黙って責めているんだわ。罪も責任もみんなあたくしに在って、あたくしがあやまらなければならんだわ。誰もがぼんやりして子供を川へ落して来た子守娘のようにあたくしを見るの。それはむしろ安枝さんじゃありませんか。安枝さんは死んだから得をなすった。あたくしこそ被害者だということを、どうして誰もわかってくれないんです。う。あたくしはともかく、死んだ二人の児の母親なんですわ」

III

「それはあなたの III ですよ。誰がそんな目であなたを見るもんですか。生田のお姑さまだって、何よりもただ朝子が可哀そうだと言って泣いていらしたよ」

「口ではそんなことを仰言るのよ」

朝子は、理由もなくムシヨウに不満であつた。^B 轆轤^{かんか}不遇の身にあるようで、真価をみとめられずに^{きさ}貶黜^{へんちゆう}されている思いがした。これほどの悲しみを味わった身には、どんな非道の権利も備わっているように思われるのに、^{しやうとあ}姑にむかつて詫言^わを言ったりしている自分自身にも大いに不満があつた。この我儘^{わがまま}な、全身のむず痒いような焦慮と憤おろしさを、彼女は実母にぶつけて甘えたのである。

朝子は気づいていなかったが、彼女は人間の感情の貧しさに絶望していたのである。一人死んでも、十人死んでも、同じ涙を流すほかに術^{すべ}がないのは不合理ではあるまいか？ 涙を流すことが、泣くことが、何の感情の表現の目安²になるというのか？ 人の目に映っている彼女自身は一体何者なのか？ そうかと云つて自分の内部に目を移すと、この^{*4}比倫を絶した悲しみの実質が、いかにも曖昧^{あいまい}模糊^{もこ}としてゐることに、別の絶望を感じるのであつた。

朝子は自分が倒れないのがふしぎである。暑い最中に喪服を着て、一時間の余も立って倒れないのがふしぎである。時々気の遠くなるような心地のするとき、彼女をおびやかして立直らすのは、あの新鮮な、言語を絶した死の恐怖である。「あたくしって思ったよりしつかり者なのね」——朝子は実母を顧みて、泣き出しそうな顔で、そう言つた。

朝子は自分が既に少しも安枝の死を悲しんでいないのに気がついた。善良な朝子は、それを少しも憎悪だと思つていなかったが、それが憎悪にさえ近かつた理由は、四時間の余も安枝の死に懸³りきりになつていたおかげで、子供の死を忘れていたというその事に懸³つていた。

良人^{おとこ}が両親と安枝の話をして、老嬢のまま死んだ可哀想な妹の死に涙をこぼしていると、朝子は良人にさえ微^かかな憎悪を感じた。

「子供と妹とどっちが大事だと思つていたのかしら」

——心の中でそう言つた。

朝子はたしかに気が張つていた。お通夜のあとなど、眠れるべきものが眠れない。それでいて頭痛一つするではない。頭はむしろ^Cケンゴに締つて爽やかである。

^D チョウモンキヤクがしきりと朝子の健康を気づかうので、一度はうるささのあまり、「あたくしの体なんぞ放つておいて下さい。もう生きたつて死んだつておんなじことなんですから」などと^E 言つたりした。

IV

自殺も狂気も、今の彼女の心境には程遠かつた。克雄のいることが、⁴ 差当り、朝子の生き永らえるもつとも妥当な理由になつた。しかし時には、喪服の夫人たちにかわるがわる絵本を読んでもらつてゐる克雄の姿を見て、あの時自殺しないでよかったと今彼女に言わせるものは、卑怯^{ひきよう}へ墮^おちた勇氣、無氣力へ墮^おちた情熱であるように思われることもあつた。そういう晩は、良人の胸で、スタンドのひろげる光りの輪の周辺へ、^{うき}兎のような無垢^{むく}な目を向けたま

5 ま、訴えるでもなく、こう繰り返して言うことがあった。

「やっぱりあたくしが悪かったのね。あたくしが無責任だったのね。安枝さんに子供三人を任すなんて、無理がはじめてからわかってた筈じゃないの」

その声は山に向って反響をためているように空虚である。

勝は妻のこのしつこい責任感が何を意味するかを知っていた。彼女の待っているものは或る種の刑罰である。このごろ朝子は*₅貪婪と云ってもよいほどである……。

二七日がすぎると、夫婦のまわりにはやっと日常生活が還って来た。今度こそは心身を休めるために、子供づれで保養に出かけることをすすめる人が多かったが、朝子には海も山も温泉もおそろしかった。「不幸は踵を接して来る」という迷信にとらわれていたのである。

晩夏の一日、朝子は克雄を連れて夕方の銀座へ行った。勤めのかえりの良人と待合せて、食事をしに行く約束があったのである。

このごろ克雄は母におねだりをして、叶えられなかったことがない。父も母も気

あ

がわるいほどやさしい。その代り硝子の玩具のように

V

扱われ、電車通りを渡る時などは大へんである。停止線に車輪を並べているトラックや乗用車の群を、母は敵視するように見て、克雄を手を擁して駈ける。

店の飾窓にある売れ残りの海水着は、朝子の目をおびやかした。殊に安枝の水着とよく似た緑いろのが、マネキン人形に着せられていたので、目を伏せてその前をとおった。とおったあとで考えると、その人形は胴体だけで首がなかったように思われた。あるいは首があつて、安枝の屍の顔をそのまま、濡れたほつれ毛のからまる中に目をつぶっていたようにも思われた。マネキン人形というマネキン人形が土左エ門を摸しているように思われた。

はやく夏がすぎればいいと朝子は思った。夏という言葉そのものが、死と*₆糜爛の聯想を伴っていた。かがやかしい晩夏の光りには糜爛の火照りがあつた。

待合せの時間にはまだ夙かったので、母子は百貨店へ入った。もう三四十分で閉店の時刻である。克雄は玩具売場へ行きたがったので、朝子は三階へ行って、子供用の海水浴用品の売場の前を、大いそぎで

VI

。母親たちが見切品の子供用海水パンツを血眼で取り取っていた。一人の母親は

小さな紺のパンツを、西日のさして来る窓のほうへ高くかかげた。日は留金に当ってまぶしく目を射た。母親たちはああして血眼で*₇経帷子を扱っていると朝子は思った。

積木を買ってもらうと、克雄は屋上へ行きたがった。屋上庭園は涼しかった。可成強い海風が日覆をはためかせていた。

金網を透かす都会の眺望の彼方に、勝鬨橋や月島棧橋や港内に碇泊している貨物船の数々が見えた。

克雄は母の手を離れて、猿の檻の前に立っていた。朝子は気がついて克雄を擁して立った。風のせいか、猿は大そう臭かった。額に皺を寄せて、まじめな顔でじつと母子を見た。片手で尻を大事そうに押えたまま別の枝に移ったとき、小さな老成た頭の横に赤い血管の透いた汚れた小さな耳が見えた。……こんなにしみじみと動物を見たことが朝子はなかった。

檻の横に水の出ていない噴水を央にした池がある。煉瓦の周辺を松葉牡丹のカダンがとりまいている。克雄と同年ぐらいの子が、煉瓦の上を伝わって歩いている。両親の姿はない。

『落ちればいい！ 池に落ちて溺ればいい！』

朝子は熱心に、その覚束ない男の児の足取を眺めた。子供は落ちなかった。一巡すると、熱心な目つきに気づいて朝子を見て得意そうに笑った。朝子は笑わなかった。子供が自分を嘲笑していると感じたのである。

——彼女は克雄の手を引いて、屋上庭園からいそいで下りた。

食事のとき、やや永びきすぎた沈黙を破って、朝子がこう言った。

「あな た っ た ら、お た の し そ う ね。ち っ と も 悲 し が っ て い ら っ し ゃ ら な い み た い ね」

勝は愕いて、周囲の客を見廻した。

「わ か ら な い か な あ。お 前 の 氣 を 引 立 て よ う と 思 っ て、こ れ だ け 俺 が 苦 勞 し て い る の が」

「あ た く し、別 に 氣 分 を 引 立 て ら れ な く て も い い の」

「それ は 我 儘 だ よ。克 雄 に 暗 い 翳 が 出 た ら ど う す る ん だ」

「どう せ あ た く し に は 母 親 の 資 格 な ん か な い ん で す も の」

これでその晩の食事は台無しになった。

勝は妻の悲嘆に対して日ましに受身になった。男には仕事がある。仕事でもって気を紛らせることができる。その間朝子は自分の悲しみを育てている。家へかえればこういう朝子の

VII

悲嘆に附合わねばならない。勝の帰宅がともすれば遅くなるのはこのためである。

朝子は昔の女中を呼んで、身のまわりに在った清雄と啓子の衣類や玩具をやってしまった。同じ年恰好の子供がいたからである。

ある朝、朝子はすこし寝すごして目をさました。ダブル・ベッドの一方の端には、昨夜おそく酔って帰った良人が丸くなって眠っている。床の中には暗

い酒の匂いがまだ淀んでいる。良人が寝返りを打ったので敷蒲団のバネがきしんだ。子供が克雄一人になったので、よくない事であるが、朝子は克雄の子供用寝台を二階の夫婦の寝室に入れた。夫婦の寝台の白い蚊帳と克雄の蚊帳と二重を透かして、息づいている克雄の寝顔が見える。この子は口を尖らせて寝る癖がある。

朝子は蚊帳の中から手をのばして、カアテンの紐を引いた。麻の手ざわりに包まれて固い紐のしこりが、彼女の朝の熱っぽい掌に快い。帳がすこしあく。窓の前の青桐の葉が下から光りを受けて、影が重複して、闊い葉叢がいよいよ柔かく見える。やかましく囁っているのは雀である。その雀たちが、毎度のことであるが、目をさまして囁りだすとすぐ、多分列を作って、屋根の樋のなかを渡るのである。固いあわただしい小さな足音が、一端から一端へ引続いて渡る。それがまた往復する。朝子はこれを聴いて、思わず微笑した。

恵みの深い朝である。そう感じる理由はないのに、そう感ぜずにはいられない。枕に頭を委ねたままじつとしていた。幸福感が体じゅうに行き互りそうに思われた。

そのとき朝子のはっとしたことがある。なぜこんなに愉しい気持で目をさましたかがわかったのである。今朝はじめて、死んだ子供たちの夢を見なかった。毎晩欠かさずに見ていたのに、昨夜はそれらしい夢がなかった。見たのは何か気楽な莫迦々々しい夢である。

それに気づくと、今度は自分の忘れっぽさと薄情がおそろしくなって、母親にあるまじきこんな忘却と薄情を、子供たちの霊に詫びて泣いた。目をさました勝は、泣いている妻を傍らに見出だした。その泣顔には棘々しさの代りに、一種の平和があった。

「また思い出したんだね」——そう良人が言った。

妻は説明の い を省いて、嘘を言った。

「ええ」

そう嘘をついた以上、良人が貰い泣きをしないのが不満であった。良人の涙を見れば、自分の嘘を信じる事ができると思ったのである。

(三島由紀夫「真夏の死」より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある)

注1 克雄…無事だった三歳の男の子。

3 貶黜…官位を下げてしりぞけること。

6 糜爛…ただれ崩れること。

2 轆轤不遇…時世に恵まれず、世に受け入れられないでいること。

4 比倫を絶した…他に比べるものがない。

7 経帷子…死者に着せる衣。

5 貪婪…ひどく欲深いこと。

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① 申し立てをキヤツカする

(35)

② 手数料をカサンする

③ ゼンカ三犯

④ ケイカ観察

⑤ ゼツカ事件

B ① ショウソクを断つ

(36)

② ショウワルな人

③ エコノミークラスショウコウグン

④ レンセンレンショウ

⑤ ショウルイ憐みの令

C ① ケンコク記念の日

(37)

② トシユクウケン

③ ごソウケンでなによりです

④ チュウケン企業

⑤ 事情をごケンサツください

D ① 受付で氏名をキチヨウする

(38)

② 会費をチヨウシユウする

③ 裁判をボウチヨウする

④ 人氣がゼツチヨウに達する

⑤ ケイチヨウ費

E ① ダンドウミサイル

(39)

② ダイダンエンを迎える

③ 彼のドクダンジヨウだ

④ フダンの決意で臨む

⑤ ダイジヨウダンに構える

問二 空欄 I Ⅶ に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 I	① 意欲的	② 人道的	③ 流動的	④ 事務的	⑤ 機能的	(40)
空欄 II	① 自立	② 両立	③ 成立	④ 乱立	⑤ 鼎立 ^{ていりつ}	(41)
空欄 III	① 僻み ^{ひが}	② 横着	③ 取り越し苦労	④ 入れ知恵	⑤ 気合い負け	(42)
空欄 IV	① 厳めしく	② 遠回しに	③ はしたなく	④ 冷静に	⑤ 抜け目なく	(43)
空欄 V	① 悠長に	② 気安く	③ ぎこちなく	④ 合理的に	⑤ 慎重に	(44)
空欄 VI	① 一巡した	② 闊歩 ^{かつぽ} した	③ 素通りした	④ 歩き回った	⑤ 奔走した	(45)
空欄 VII	① 委曲を尽くした	② 一本調子の	③ 金城鉄壁の	④ 大時代な	⑤ 訥々 ^{とつとつ} とした	(46)

問三 傍線部 I 「里の両親には、ひどい態度で喰^くってかかった」とあるが、なぜ朝子はそのように振る舞ったか。その説明として最も適当なものを、次の

①～⑤の中から一つ選びなさい。

(47)

- ① 姑も、子どもの安枝を亡くしているので、今の自分の心の中のモヤモヤを理解してくれると思っていたのに、彼女が、あからさまに自分を責めるような態度をとったから。
- ② 里の両親に、自分が一番の被害者であることを誰もわかってくれないという不満を訴えたが、二人は、勝の両親の肩まで持って、娘の自分に寄り添うような心遣いを見せてくれなかったから。
- ③ わだかまりを解消したいと思い、自分を押し殺して、姑に詫言を言っているのに、その気持ちを夫が理解してくれないことに対する鬱憤を、両親に甘えることで晴らしたいと思ったから。
- ④ 同時に二人の子どもを亡くし、もっとも悲しんでいいはずの自分が、娘や孫を失っているとはいえ、勝の両親に謝罪している状況がひたすら理不尽なものに思われたから。
- ⑤ さまざまな手続きを滞りなく進めて、葬式の準備をしてきたが、そのせいで、子どもの死を悲しむ暇がほとんどなかったことに気づき、亡くなった子どもに申し訳なく思われたから。

問四 傍線部2「目安」、傍線部3「懸りきりになっていた」、傍線部4「差当り」、傍線部6「踵かかとを接して」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|--------------|-----------------|--------------|---------|---------|
| 傍線部2 | ① 基準 | ② 長所 | ③ 味わい | ④ 実例 | ⑤ 特徴 |
| 傍線部3 | ① 用心深くなっていた | ② 気抜けしてぼんやりしていた | ③ もっぱら関わっていた | | |
| | ④ 不満ながら諦めていた | ⑤ 虚勢を張って耐えていた | | | |
| 傍線部4 | ① 最初から | ② 相変わらず | ③ 次第に | ④ 今のところ | ⑤ 結局 |
| 傍線部6 | ① 常に | ② 続けざまに | ③ 忘れたところに | ④ もう一度 | ⑤ ゆっくりと |

(48) (49) (50) (51)

問五 空欄 あ、い に入る漢字と同じ漢字が に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

- | | | | | | | |
|-----|---------|--------------------|--------------|--------|--------|------------------------|
| 空欄あ | ① 思う念 | 岩をも通す | ② 怪 | 乱神を語らず | ③ 判定に手 | を加える |
| | ④ 株で儲けて | を占めた | ⑤ 後 | が悪い | ⑥ 目は | の鏡 |
| | ⑦ 手前 | 増 <small>そ</small> | ⑧ 君が来てくれれば百人 | だ | ⑨ 安 | 立命 |
| 空欄い | ① 勤 | 奉仕 | ② | 骨にむち打つ | ③ 一姫二太 | |
| | ④ | 婆心ながら | ⑤ | 夜 | 自大 | |
| | ⑦ 一族 | 党 | ⑧ | い木に花 | ⑨ 疲 | 困憊 <small>こんばい</small> |

(52) (53) (54) (55) (56) (57)

問六 傍線部5「『やっぱりあたくしが悪かったのね。……無理がはじめてからわかってた筈^{はず}じゃないの』とあるが、勝は、このように訴える朝子の気持ち

をどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(58)

① 朝子は、生き永らえるもつとも妥当な理由が克雄の存在にあり、あのとき自殺することを思いとどまったのは間違いでなかったと考えているであらう。

② 朝子は、二人の子供を追って自殺したいと思ったこともあったが、それは卑怯な生存本能であり、それを誤魔化したいと考えているであらう。

③ 朝子は、三人の死に対する自身の罪を認めて、それを償うことができたなら、張り詰めた今の状況から抜け出せるのではないかと考えているであらう。

④ 朝子は、二人の子供を亡くした悲しみに暮れることが日に日に減ってきたことに気づき、自身を奮い立たせようと考えているであらう。

⑤ 朝子は、安枝に預けたことで二人の子供を失うことになってしまった失態を挽回し、夫の自分に許してほしいと考えているであらう。

問七 傍線部7「ある朝、朝子はすこし寝すごして目をさました」とあるが、これより後の朝子の心の動きはどのようなものであったか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(59)

① 子供を亡くしている自分に、こんなに早く、恵みの深い朝が訪れ、幸福感に包まれるようになるとは思わなかった。初めて、死んだ子供たちの夢を見なかったが、その理由が分からず、子供たちへの愛情が薄らいでしまったのかと落ち込んでしまう。夫には、泣いている理由を誤魔化して嘘をついてしまったが、きつと彼は、自分の嘘をお見通しのはずで、申し訳ない。

② 何ということもない朝だが、幸福感が全身を包むかのような、恵みの深い朝に感じ入っている。初めて、死んだ子供たちの夢を見なかったことに愕然とし、それは母親として許されない振る舞いで、子供たちには申し訳なく思う。そのことは、夫には嘘について打ち明けなかったが、夫と一緒に泣いてくれれば自分の嘘を信じることもできたのに、そうしてくれなかった夫のことが恨めしい。

③ 恵みの深い朝に、全身で幸福感を感じたことに感謝しつつも、こんなことに心を奪われている自分の心境の変化には戸惑うばかりである。初めて、死んだ子供たちの夢を見なかったのは、自分の忘れっぽさと薄情のためで、こんな自分に育てられる克雄は可哀想に思う。夫は、自分が亡くなった子供たちのことを悲しんで泣いていると勘違いしているが、彼にはとても本当のことは言えないので、嘘をついておくことにする。

④ 恵みの深い朝の幸福を、死んだ子供たちと一緒に味わうことができたら、どんなに幸せだったろうと、改めて、子供の死が実感される。初めて、死んだ子供たちの夢を見なかったことが、自分の性質に問題があることによるのかと恐ろしく思う。夫には、亡くした子供のことを思い出しているだけだと嘘をついたが、夫と一緒に泣いてくれないのは、夫の子供への愛情が薄かったからではないかと不満である。

⑤ ただの朝が、訳もなく恵みが深いと感じる自分を不思議に思いながらも、幸福感が体じゅうに広がるのを抑えることができなかった。初めて、死んだ子供たちの夢をみなかったのは、張りつめ通しだった自分を休ませてくれようとする彼らなりの気遣いだったのではないかと思う。夫が自分の嘘を簡単に信じてしまうのは不満だが、彼には、到底、今の自分の気持ちは理解してもらえそうにない。

問八 この小説の作者・三島由紀夫の作品を、次の①～⑦の中から二つ選びなさい。

(60)

(61)

① 『野火』

② 『砂の女』

③ 『海と毒薬』

④ 『金閣寺』

⑤ 『伊豆の踊子』

⑥ 『人間失格』

⑦ 『豊饒の海』

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2022/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2022 Hiroshima International University, All rights reserved.
